

毎週水曜日掲載

週刊 **デイリースポーツ** DAILY SPORTS

高校野球

伝統の一戦を前に集合写真に納まる神戸、兵庫ナイン



夏の甲子園より長い歴史

選手権大会へ向う大きな

◆定期戦(10日・神戸
高専ラウンド)
神戸 010010010
兵庫 00500100X17
00500100X17

100年続く伝統

夏の選手権地方大会に第1回から連続で参加し続けている兵庫県有数の伝統校神戸と兵庫兄弟校である2校は、夏の選手権大会より長い100年近くの歴史を持つ定期戦を行っている。1908年、神戸一中(現神戸)と神戸二中(現兵庫)の間で行われた練習試合が起源。両チームが母校の名譽をかけて真剣勝負する「神戸の早慶戦」が今年10日、3年ぶりに行われ、兵庫が1-3で勝利。伝統に新たなページを刻んだ。

応援にも熱

1世紀の間、一投一打に熱狂する定期戦が神戸と兵庫の間で繰り返されてきた。時代の変遷を経ても、白球を追う姿は100年以上前の先輩たちの姿と変わらない。全校応援を背に、母校の名譽のために勝利を狙う。この試合に勝つことは夏の選手権大会へ向う大きな

弾みにもなるのだ。昨年、一昨年は雨天中止。今年の3年生にとっては入学以来、最初で最後の定期戦となった。結果は兵庫が木谷拓樹(らるき)・主将(3年)のラニング本塁打などで7点を奪い快勝した。「最初は緊張したが、始めてみたらワクワクして楽しめた。応援のみんなの力で勝てた」と充実感を漂わせた。

定期戦が始まった時期は明確ではないが、兵庫の野球部創部間もない1908年、兄弟校である神戸との間で行われた練習試合がきっかけだとされている。以後、毎年1、2回、両校の間で試合がぶ組まれてきた。大正初期の13年ごろから全校応援による定期戦という形となった。「扇港(神戸)の早慶戦」と呼ばれる試合の歴史は15年に始まった夏の甲子園第1回大会(当時は豊中球場より古い。現在は春日秋の定期戦の一環として行われ、ほかの運動部とともに競技が行われる。春は野球のほかバレー、柔道などの対抗戦が同時に行われ、それぞれ勝利数を累計して総合優勝を競う。こ

扇港の早慶戦



の日は午前に行われたハレー、サッカー、ソフトテニス、柔道の競技を終え両校313の同点。最後の野球が雌雄を決するメイ・競技となった。学工の姿の応援団がエールを送り、吹奏楽の演奏に合わせて全校生徒が声援を送る。夏の兵庫大会もしのぐほどの熱が伝わってくる。この応援は引き分け再試合をめぐり両校応援団が過熱でも、2000人もの観客の中、ラレーするとは(3年は「日」の練習の成果を全校生徒に見せたいと、絶対の機会。練習試合と雰囲気の違い、これだけの人の中で試合ができただけに、勝ったかったと悔しかった。

ウエーブで盛り上がる兵庫の生徒たち
神戸・兵庫の定期戦は両校生徒たちの大応援の中、熱戦が繰り広げられた(撮影・飯室逸平)
1908年、神戸一中(現神戸)と神戸二中(現兵庫)の間で行われた練習試合が起源。両チームが母校の名譽をかけて真剣勝負する「神戸の早慶戦」が今年10日、3年ぶりに行われ、兵庫が1-3で勝利。伝統に新たなページを刻んだ。